

平成 29 年度第 1 回高知県環境審議会（要旨）

日時：平成 30 年 2 月 6 日（火曜日） 13：30 ～ 16：00

場所：高知商工会館 3 階「寿」

出席者：〔委員〕石川会長、内田副会長、アウテンボーガルト委員、一色委員、岩神委員、大崎委員、岡村委員、山本委員、島内委員、多々良委員、時久委員、西村委員、田岡委員、藤原委員、細川委員、松田委員、矢野委員、岩内委員、横川委員（19 名）

〔事務局〕林業振興・環境部長、環境共生課 ほか関係 18 課

1. 開会
2. 林業振興・環境部長挨拶
3. 会議記録署名委員の指名

会議記録署名委員については、田岡委員、岩内委員が会長から指名された。

4. 議事

議題（1）部会報告

【自然環境部会】

第 12 次高知県鳥獣保護管理事業計画の策定について、高知県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画の策定について、高知県第二種特定鳥獣（イノシシ）管理計画の策定について、及び横倉鳥獣保護区特別保護地区の指定について石川会長より資料 1 に基づいて報告された。

【水環境部会】

平成 29 年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について、藤原部会長より資料 2 に基づいて報告された。

議題（2）諮問事項

生物多様性こうち戦略の改定について、第 12 次高知県鳥獣保護管理事業計画の変更について、高知県第二種特定鳥獣（ニホンジカ）管理計画の変更について、高知県第二種特定鳥獣（イノシシ）管理計画の変更について田所部長が一括して諮問書を読み上げた。

（諮問した 4 項目について部会へ付託された）

議題（３）審議事項

高知県環境基本計画の進捗管理について環境共生課三浦課長が資料３に基づき一括して説明。

（質疑応答）

（藤原委員）

提案と意見があり、提案は部長のご挨拶の中でSDGsの話がされていたが、国連としての国際社会の目標、日本国としても推進をしていくという話になっているので、高知県環境基本計画のそれぞれの目標がSDGsの17項目のどれに対応するのかロゴマークを入れるなどして見える化をしてあげると、高知県としてSDGsに積極的に取り組んでるということは県民にもご理解いただけるのではないかと思いますので検討していただきたい。

意見の1点目は資料3の1ページの目標1番の現状と課題についてパリ協定の発効により、極端な低炭素化が求められておりと記載してあるが、極端な低炭素化っていうのは国際目標に対するネガティブな評価が入っているようにも読み取られるかと思うので、例えば大幅な低炭素化とかいうような表現のほうが、よろしいのではないかと思います。

2点目は2番の循環型社会への取組については、最初に会長のほうから廃棄物処分場の日高村のほうの残余容量が20年もつはずが10年になってしまったという話があったが、そちらと照らし合わせたときに、現在のごみ排出量や再生利用量の割合が目標と現状が大きく変わってないにも関わらず、日高村のほうの予定は20年から10年で埋まったということになってるわけなので、この目標で良かったのかどうかというのを再検証した上で、改めて次の目標年次5カ年を策定されるときには目標というのを立てられてはどうかと思う。

3点目は7ページ、整理番号14番の家畜排せつ物の家畜ふん堆肥について、処理施設の導入促進については、具体的なインプット、それに基づくアウトプットは記載されているが、余剰ふん堆肥が依然生じていることについてのインプットが記載されていない。結局使ってくれる人がいないと堆肥を作っても余るだけになるので、そのインプットを書き込んでいく必要がある。あるいは現時点で取組めていないのであれば、来年以降、書き込めるように取り組まれてはどうか。

4点目は、大項目として、環境ビジネスの振興の取組は、アウトカムの部分はある程度ビジネスの視点でも記載されるべきではないかなというふうに考えます。

例えばグリーン・ツーリズムの推進では、観光客への意識付けがされたと記載されているが、具体的にグリーン・ツーリズムの観光客が何人増加とか、それに伴う経済効果とかを環境ビジネスのアウトカムとしては書くべきなのではないか。

あるいは、IPM技術の普及もキュウリの天敵導入面積率は40%というのはアウトカムだと思う。それを踏まえて、農家の方の収益が上がったのかとかビジネスとしてのアウトカムをもっと書き込むべきではないかと思います。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

まず、提案いただいたSDGsの見える化については、ご意見のとおりですので、次の審議会では分かりやすいようにします。

ご意見の1点目のCO2排出量についての文言については、所管課と相談しまして文言の修正を図りたいと思います。

(事務局 環境対策課 萩野課長)

ご意見の2点目は日高村のエコサイクルセンターが想定よりも早く満杯になったことの原因としては、特に鉱さいなどの最終処分量が多かったということでございます。

これが今後リサイクルを進めることによって長く最終処分場を使えるというふうなことに繋がります。その辺り私どもとしても問題点として認識しておりますので、次の計画の中にはそういったことも具体的に反映できるように取組んでいきたいと考えていきます。

(事務局 畜産振興課 岸本主査)

3点目の堆肥を作っても利用してくれないところがないといけないというのは、1つの課題であります。今、できた堆肥を敷料として、畜産の牛とかの敷料として再利用という形で2回3回使える戻し堆肥というやり方がありますが、指導ができる技術員が少ないので、積極的に研修会とかに参加を促すようにしていかないといけないかなというところです。

また、次回からはインプットも細かく書いていきたいなと思っておりますので課内でも検討させていただきます。

(藤原委員)

私としては、環境保全型農業の推進という項目6と連携を取りながら進めていただくのがいいのではないかと思います。

(石川会長)

ご指摘いただきましたビジネスでの記載ということでございますけども、観光で現状をお伝えできることはございますか。

(事務局 地域観光課 笹岡チーフ)

ご指摘いただきましたグリーン・ツーリズム関係での誘客人数、また経済効果については、申し訳ありませんが、数値は把握できておりません。観光としては、グリーン・ツーリズムなど様々な要素を複合的に展開して誘客し、それによって県外観光客の入込み数や消費額を集計しておりますので、ご指摘いただいた分含めて、どういった記載ができるか、改めて検討させていただきたいと思っております。

(藤原委員)

日常の業務の中でされているデータを持ってこようとすると、記載するのは難しいというのとは十分理解しておりますが、高知県環境基本計画の中の大項目として環境ビジネスの振興ということを挙げるのであれば、目標の達成に対する評価をするためのデータをこの目的のために整備するべきではないかと思う。項目を挙げるということはそれ相応の評価を当然伴うという形でご検討いただきたい。

(アウテンボーガルト委員)

今の藤原委員がご指摘された環境ビジネスのことは、私も気になっていた点です。

私は長年、四万十川流域のグリーン・ツーリズムのネットワーク、すみずみツーリズムという会に関わったり、自分自身も体験民宿を経営しているので、大変関心があります。

資料に記載されているように Rural 高知とか四国グリーン・ツーリズム協議会のホームページを作成したとかが、どの程度影響力があるのかっていうのは、数字で出していたけるといいと思っております。

例えば四万十川流域のすみずみツーリズムというネットワークにおきましては、毎年、宿泊客と体験客の人数は数字として把握しているので、四万十流域に関してはある程度グリーン・ツーリズムの成果というのは出せるんじゃないかと思っています。

四国グリーン・ツーリズム協議会のホームページを見ても、グリーン・ツーリズムを推進している印象は受けなくて、今は県が取り組んでいる幕末維新博とかに行き、流域地域で振興している農家レストランとかのグリーン・ツーリズムの取組についての広報には物足りないかなと思っているところなので、また今後ご協力いただけたらきたいと思っています。

2点目はオオキンケイギクの防除についてですが、四万十流域に関しては広報のお陰でかなり防除の成果が見られていると思いますが、やはりきれいだから植えたいという意識が根強いような印象を受けていますので、オオキンケイギクの防除についての広報は引き続きお願いしたいです。

(事務局 地域観光課 笹岡チーフ)

1点目のグリーン・ツーリズムについては、こういった形で出していくか、改めてご相談もさせていただきながら、今後とも進めていきたいと考えております。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

2点目のオオキンケイギクについては、県内にかなり広がっており、公共施設の土地については県と市町村で協力しながら随時防除しておりますが、絶滅となるとかなり手間が掛かる作業になっております。ご意見頂きましたとおり花はきれいですから、自宅に持ち帰って栽培を始めてしまう方もおいでになりますので、引き続き啓発活動は続けます。

(アウテンボーガルト委員)

オオキンケイギクは特定外来植物ですので、きれいだからと持って帰ったら罪になるので、そういったことも含めて啓発していただきたい。

オオハンゴンソウも駆除に行きましたが、一度生えたら何年もやらないといけないので、広めないって啓発が必要です。オオキンケイギクだけにこだわらないでやっていただきたいと思います。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

ご指摘のとおりでございますので、行政だけではなく地域の方々と進めてまいりたいと考えております。

(石川会長)

外来種の問題については、メリケントキンソウというキク科の外来種が高知大学の運動場の中にも何十万個体おります。他の所でもいると思っており、芝生のように緑ですが、犬を連れて入ったりすると犬の肉球に刺さったり、問題は子供に刺さったりします。

そういう実害のある危険な外来種が、蔓延し始めているのでどこかでちょっと研究してもらわないといけないかもしれません。そういったことも意識しておいていただきたいと思います。

(岩内委員)

1点目は私どものコープ自然派では、毎年、遺伝子組換え菜種についての調査を行っておりまして、今のところ高知県下では出ておりませんが、四国で既に1件出ております。これも外来種のように広がるとすごく嫌だなという案件です。これについての対策というのを県ではしていただけないのかということです。

2点目は漁場環境の保全につながると思うんですけども、今、沖縄の先でタンカーが難破炎上しましたが、アメリカの海洋学センターの動画では、高知沖にも届くような勢いで流れてきているという予測が出ております。これについて緊急的な対応として何かやっているのか、若しくは今後対応があり得るのかどうか。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

菜種につきましては、細かく承知しておりませんので、またご相談させてください。

タンカーの件は、実際に被害が想定される段階で危機管理部を中心に、どのような影響が予測されるのかを想定して対応していくということになります。今現在は各部局には情報が入ってきておりませんので状況を確認させていただきたいと思います。

(一色委員)

最初にこの基本計画策定を議論したときに、これは県の様々な施策のうち環境に関わるものを集大成するというものなので、全体としてかなり地味な形での評価になることが多くなるので、どのように計画をPRしていくのかが非常に重要だという議論をしたのを覚えています。

特に計画をどうPRするかということと併せて、成果をどのようにPRしていくのかということも重要であると思いますが、現在その点に関してどういう取組をしているのか、またどういった課題があるのか分析をお伺いしたい。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

PRにつきましては、取組の状況につきまして環境白書という形で各年度の成果について公表しております。ただ、全体として今回ご審議いただく中身についてテレビなどを活用してというようなPRまでは至っておりません。環境白書は、製本化しまして関係各所に配布をして、併せてホームページにアップして皆様にお知らせをするという状況です。

(一色委員)

環境白書を何年度分かを見ていくと、施策の重点の移り変わりや、どういう成果が上がってきたかということが分かると思うんですが、一覽で過去の経緯を含めて少し長期的な評価というのも重要なんじゃないかと思います。

もともと基本計画を定めるときに、前提としてそういう形できちんと総括はしておりますけれども、白書というのは一般の人が見たときに分かりやすいかということと必ずしもそうでないと思うので、もう少し一般の人に向けてどういう形で分かりやすい情報発信ができるのか、あるいは成果も短期的な成果だけではなく、中期長期にわたる取組の中の成果というのがどうなっているのかということが分かるようなPRというのをしていただけたらと思います。

高知県のホームページでも例えば、部課が変わるとリンクが全部切れてしまうとか、本来必要な場所1カ所で見ることができるようにすべきなのに、分散している情報があって、探すのに非常に困ることがあります。その辺も含めて環境の問題だけではないと思いますが、一般の人向けにどう発信するかという視点から情報を整理して発信していただけるようお願いしたい。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

ご意見のとおりだと思いますので、計画を見直しする際に一定総括して、次の計画をどう反映させていくか整理はしていると思いますけど、それを一般の方々に分かりやすくという視点は抜かっておったということだと思いますので、そういったところも踏まえて一般の方にもどのような見せ方をするのかは考えてまいりたいと思います。

(岩神委員)

昨年度のこの会議の中で、公共工事のことについてお尋ねしまして、ご返事いただいたわけですが、国がやる工事についてその後、この会での意見が出ておったというような事柄を国の工事との間で話合いがなされたかどうか。話合いはしたけど、うまくいかなかったということであれば、またその内容をお聞かせをしていただきたい。

(事務局 河川課 大野チーフ)

昨年度、物部川の工事のことでご意見頂いたことについては、物部川の工事を担当しております高知河川国道事務所に伝えております。今年度も継続して工事を続けているところですが、昨年度は、おっしゃっていたような魚の遡上を阻害するようなものについて、高知河川国道事務所でも思い当たるものがないということで、よろしければ具体的に今年も何か気になってることがあるのがありましたら、教えていただきたいです。

(岩神委員)

今年、具体的に何か問題ではなく、国交省と話合いをしていただいたかどうかということが知りたかったので承知しました。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

ご意見頂いて、その後の結果をお伝えできてないということだと思いますので、この場をお借りしてお詫びいたしますとともにしっかりと情報共有を皆様とするということが大切ですので、そういったことに取組を進めていくということでご回答とさせていただきます。

(島内委員)

1点目は最初の1ページ目、2ページ目に、環境指標が書いてあるけれど、少し分野が多岐にわたってまして、目標値があって、現状の数字があって、それが達成されているのか一目でよく分からないんですね。目標値に対して高ければいいのか、低ければいいのか一目で分かるようにすると、広く県民の皆様にも分かりやすいと思いました。

2点目は環境を守り育てる人材の育成というのがありますが、いろんな分野でいろんな人材を育てるためにたくさんのことをされているように見受けられますが、例えば、何か人材を育てるといって、一緒に講習会を開催するというのもあるんじゃないかと思えますし、また、環境を守り育てる人材の育成の指導者の育成が一まとめに21、22、23の項目に並べてありますが、高知県がこの環境のために、スーパー推進員や自然体験上級指導者とか、生物多様性こうち戦略推進リーダーなどの人材を育てているんだなと思うんですけど、これをばらばらにやられている感じなんでしょうか。例えば、この3つの資格を取ると、もっといいことがあるとか、上級になれるとかいうのは、今後、考えていかれたりするようなことはないのでしょうか。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

1点目の目標値と現状値の比較を分かりやすくというのは、庁内で検討させていただいて分かりやすくという趣旨で工夫をしたいと思います。

2点目の、人を育てる人材を育てるところで、いろいろな制度に基づいて、人材育成に取り組んでおります。実際は取組んでいただいている方が重複しておったりしてるのが現実だと思いますが、今の制度がそれぞれになっておりますので、それをもうちょっと横に通す形で資格制度なり工夫できるか検討したいと思います。

資格を対外的にどう見ていただくという視点かと思いますので、相談してみたいと思います。

(島内委員)

是非、各課が協力して良い方向に行くようによろしくをお願いします。

(時久委員)

環境を守り育てる人材の育成のところ、小中学校課とか高等学校課がないのですが、学校教育では、幼保支援課、小中学校課、高等学校課から直接提供をすると学校のほうが聞きやすいこともあったり、活用しやすいこともあってすぐ響くと思います。

人材の育成してくださって指導者を増やしていること自体はすごくいいのですが、その方達のことを学校が知ってたら、もっと学校の中に入れるんじゃないかなと思います。

育成された人のことについては、いろんな形で紹介もしてくださっているのですが、学校現場はとても多忙で、そこまで手が届かないというのが実情ですので、結局いつも来てくださってる方や、近くの人にすぐ頼むので、今回記載されてるものの成果につながってないかもしれません。資料などは幼保・小中・高等学校課を通じて提供してもらうとか、校長会で提供していただくと、成果につながってくるんじゃないかなと思っています。

学校の環境教育は、様々な形で行っていきませんが、学校行事的にやる場合と総合的な学習の時間でやるときには、子供が課題を持ってずっと追求していくやり方ですので、そのときに、こういう人もいるよと紹介してあげるやり方が一番ベストだと思います。

(事務局 林業環境政策課 坂本課長)

今回挙げております指標としまして森林保全ボランティアを挙げておりますが、今、時久委員が言われました小学校、中学校ですとか、そういったところに講師を派遣して森林環境学習を行うというのは、また別事業で山の学習支援事業として行っております。そこは森林環境税を使いまして、年間15市町村ぐらいで58校ぐらいの小・中学校に、参加者が5,200名程度ということで広く使われております。その中で講師も派遣しております。そういった指標も今後出すことも考えたいと思っております。

次に校長会を通じてという非常に有り難いお言葉でしたが、現在は各ブロックごとで指導主事会を通じて、森林環境学習の講師や派遣プログラムですとかを紹介しております。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

県も非常に課が多いので、いろいろな場面場面で子供たちに学習の機会を持ってもらいたいということで取り組んでおりますが、全ての学校でというのは難しいところですが、ご意見いただきましたように、こちら側からこういうメニューがありますよという形で、学校の先生のお手間をあまり取らないような形でご提案をさせていただいて、参加していただくということでやっていこうと思います。

環境共生課でありましたら、例えば、清流保全という枠組みの中で地域の学校の小学生に参加していただいて、水質の調査であったり清掃業務であったりしていただいておりますので、そういった地域地域でいろいろなやり方があると思いますので、そこはまた具体的にその地域の地教委さんや、校長先生にも相談しながら進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いします。

(藤原委員)

提案ですが、県が管理されている下水処理場高須浄化センターですけれども、水をきれいにするときに出てくる汚泥から発電をする事業が来年度から本格的に実施されることになっています。当然、汚水を処理するという意味では公共用水域の水質保全と直接的に関わるわけですけれども、それが同時に水をきれいにするだけじゃなくて電気も生み出すという形で、環境ビジネス的な面も出てくると思いますし、そういう意味でちょっとそういった取組も場合によれば県としての環境への取組の中に取り込んでいかれると、もう少し幅が広がっていいのではないかなと思いますので、情報提供と提案をさせていただく。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

所管は土木部になりますが、情報としては、今後、この計画を立てまして計画年度そのまま必ず変更しないということは決まっていますので、状況に応じまして内容を修正してまいります。頂いたご意見については、また公園下水道課と相談しながら反映させていくということで考えております。

(一色委員)

この進捗管理シートはインプット、アウトプット、アウトカムという形で、基本的にインプットに対応するものだけを挙げるという形になっているが、計画策定したときに想定してなかったけれども、成果として取り扱えそうなものは、何らかの形で進捗シートに備考で入れていただくと、全体としてどのような成果が出るのかというのをもっとよく分かるんじゃないかと思いますので、是非、検討お願いいたします。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

項目ごとでいろいろな事業を行う中で新たな数字というものは出てくると思いますので、極力反映するような形で考えていきたいと思っております。

(内田委員)

環境教育のところ、大人を教育して指導する人を増やしていくという対策を採られてるんですけども、子供たちが学校などで環境学習をすとか、学んだことを発表する場などを作るというのはいいと思っています。

香美市ではプレゼン大会というのを小・中・高と大学校が一堂に集まって発表してて、小学生のきらきとした顔が自信たっぷりに自分のやってきたことをプレゼンし、それに対し他の中学生、高校生、大学生が質問をする。また、反対のこともされてる。これはプレゼンをする力が付いていくということにつながっていきますし、素晴らしい環境のことを考える子供たちに育てていく人材育成だと思います。

そういう人材育成の在り方もやってもいいんじゃないかと思いましたが、提案させていただきます。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

ご提案のとおりだと思いますし、今は学校単位ではなく、グループ単位、子供さんたちが自主的にグループを立ち上げて、それを学校が見守る支援をするというような取組を特に高校生は進んでおりますので、そういった形のものと一緒に手を結べていければと思います。

県立高校につきましては、そういった発表の場が年度末に恐らくあったかと思っておりますので、現在、教育現場は多忙だということはあると思いますが、そういった場の活用について教育委員会様とも相談させていただきながら考えていきたいと思っております。

(時久委員)

発表の場というのは本当にいいです。大人が考えてた以上の子供たちの発表が現れてくるので、高知県の未来は明るいと思うんです。

子供たちが環境教育も含めて他にもまちおこしのことだったり、小・中・高で新聞づくりコンクールをしていますが、新聞づくりとプレゼンテーションと質疑応答をしますけれど、レベルがすごく高く、見ていて涙が出るような感動するような発表がありますね。

学校はそこへ参加するには、それなりの体制が必要だったりするものですから、学校の負担がなければ、子供たちにとってはそのような機会があるほうが絶対いいと思います。

(石川会長)

既に優れた取組がたくさんあるようですので、それを広めていければというふうに私も思います。

(岩内委員)

いろいろなインストラクターとか推進リーダーとかを養成講座で認定していただけていますが、私もコープで、組合さん及び一般の皆さんに対する企画立案、開催をしております、すぐ使いたいんですが、情報が来ない。こういう制度があることは知っていましたが、その中の人たちがどのくらい魅力ある方なのか、どのようなことができるのかというような情報を押さえてればどんどんやりたいという部分もありますので、学校だけではなく一般の大人の皆さんにも PR できるチャンスはまだまだいっぱいあると思いますので、情報が頂きたいです。

(事務局 環境共生課 三浦課長)

その辺については、本当に手が足りてないところだと思いますので、積極的にホームページ等活用して出していきたいです。

また、お声がありましたときにすぐに対応できる体制づくりや、さらにいろいろな企業様とかつながりがあると思いますので、そちらにも是非、広げていただきたいということでお願いをしてみたいと思います。

(石川会長)

今年は十分かなり貴重なご意見たくさん頂いて、随分、今後の改善につながると思いますので、是非、事務局のほうでご検討いただきたいと思います。

高知県環境審議会運営規程第7条第2項の規定による会議録署名委員

平成 年 月 日

委員 印

平成 年 月 日

委員 印